

令和6年度秋田県放課後児童支援員等資質向上研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

県央会場

科目 ①障害児の支援 インクルーシブマインド ~今必要なインクルーシブ教育とは~

- ◆ 多様な子どもが共に過ごすためには、プラスの視点で子どもたちを認め、マイナスの面を見せたとしても、居心地のいい状況、友達とうまく関わり合っていける状況を作ってあげることが大切だと感じました。また、学校でフォローしきれないところを、学童での遊びや会話の中で素早くキャッチし、トラウマを作らないように対処することを心がけていきたいと思います。
- ◆ “インクルーシブマインドを育てて、全ての人が心地よく過ごす社会を形成していく。”素晴らしい教育理念だと感じました。

学童では、「お話タイム」と称して、毎日の楽しかったことや嫌だったこと等を挙手して話し、共感する場を設けています。話すことでストレスが減少することを学び、大事な場であることを再認識できました。学校の不満やストレスを、遊びを通して解消し、児童たちが心地よく過ごせる場になるよう、学んでいきたいです。
- ◆ 本人も気づかぬうちにストレスを抱え、トラウマとなっている児童も、自分を理解してくれる人がいる居場所と感じてもらえるよう、私が正しいと思うことを押しつけるのではなく、児童の言動の理由、思考を丁寧に扱い、理解を深めることが大切だと感じました。普段の児童やおうちの方との雑談の際に、一人ひとりに寄り添えるニュートラルな自分である必要があることから、自身の自己理解も大事にしていきたいです。
- ◆ 全ての人が居心地のいい環境づくりを目指すには、他者理解と共感性が非常に重要なことを学びました。私たちは、学校の先生よりも密な関係にあり、また、家庭の様子もより近くで見られる立場にあります。1つの事象も言葉のかけ方の違いで、良い記憶にも悪い記憶にもなることが分かったので、個々の特性を理解し、子どもの心に寄り添うことのできる支援員になりたいと思いました。
- ◆ クラブを利用する多くの子どもが、学校から帰って来るやいなや、たくさん話しかけてきます。その一人ひとりの話を聞く毎日ですが、この雑談するという行為がインクルーシブマインドにつながっていくと学び、安心しました。学校でできた不安や不満を放課後遊びで発散したり、よく話を聞いてあげたりすることでトラウマを作らせないようにし、全体のインクルーシブを進め、クラブを笑顔溢れる場にしていきたいと感じました。